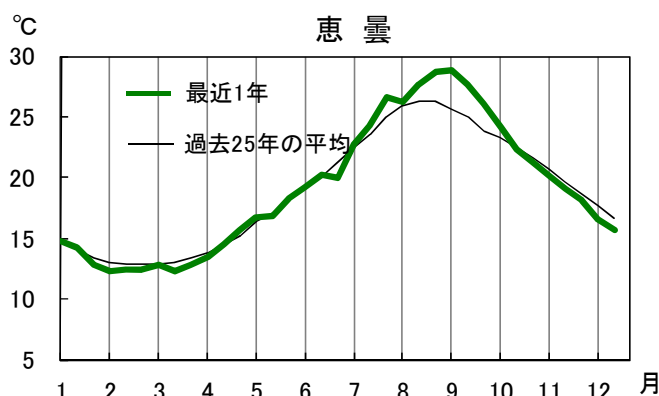
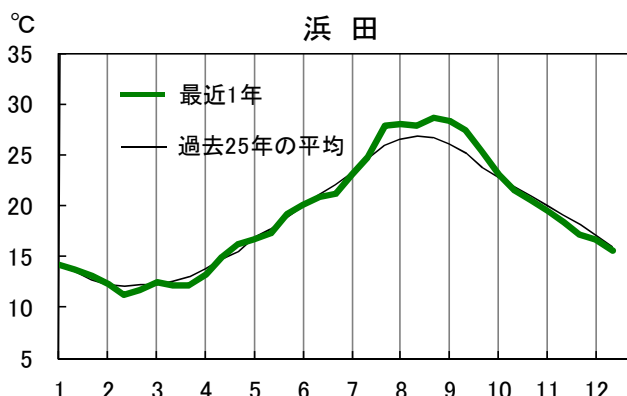




《10～11月の海況》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	18.4℃	-0.7℃	やや低め
恵曇	19.1℃	-0.5℃	やや低め

沿岸定地水温は、11月は浜田地区・恵曇地区とも「やや低め」でした。12月は中旬時点で、浜田地区では「平年並み」、恵曇地区では「かなり低め～やや低め」で経過しています。



《11月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではサバ類、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。総漁獲量は、時化の影響を受けて出漁日数が少なくなったため、各地区とも平年を下回りました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の97%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は165kgで平年並みでした。西郷地区（属人5トン以上）ではケンサキイカを主体（全体の87%）にソデイカが混じる（全体の13%）漁況となり、1隻1航海あたりの漁獲量は128kgで平年並みでした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではソウハチ、キダイ主体の漁況でした。1統1航海当たり漁獲量は12.8トンで、平年並みの水揚げとなりました。前月に比べ、ソウハチの水揚げが増加し、ケンサキイカの水揚げが減少しました。ソウハチ、キダイの水揚げは好調に推移し、平年の1.7～1.9倍の水揚げがありました。またアナゴ類も堅調に推移し、平年の1.4倍の水揚げがありました。一方、ムシガレイ、アンコウは低調で、平年の5～6割の水揚げに留まりました。

【小型底びき網漁業】

和江、久手両地区ではキダイ、ソウハチ主体の漁況でした。1隻1航海あたりの漁獲量は、両地区とも平年並みの水揚げとなりました。和江ではキダイは平年並み、ソウハチは平年の8割の水揚げでしたが、久手ではキダイが平年の2.9倍の水揚げ、ソウハチが平年並みで推移しました。また両地区ともヤリイカが平年の2.3～2.6倍、アナゴ類が平年の1.8～2倍の水揚げがありました。アンコウは平年の8割の水揚げに留まりました。

【定置網漁業】

石見地区ではサバ類、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は22.5トンとなり、この時期主体となるサバ類が平年の2.6倍、マアジが1.4倍となったものの、その他の魚種が不漁であり、結果として全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではブリ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は32.5トンとなり、この時期主体となるブリが平年の2.0倍と好調で、全統の総漁獲量は平年を上回りました。隠岐地区ではソウダガツオ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は10.5トンとなり、この時期主体となるマアジ、ブリがそれぞれ平年の6割、2割と不漁となったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

【釣・縄】

石見地区ではクロマグロ（ヨコワ）、ケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は44kgで平年を上回りました。出雲地区ではケンサキイカ、クロマグロ（ヨコワ）、サワラ類が主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は34kgで平年並みでした。隠岐地区ではケンサキイカ、ソデイカ、クロマグロ（ヨコワ）が主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は33kgで平年を上回りました。今月は時化が多かった影響により、各地区の水揚げ日数は平年の4～6割に落ち込みました。

【平成 24 年 11 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	サバ類、マアジ	375 トン	25%	66%	20.8 トン	45%	97%	○
	西郷	マアジ	4,997 トン	50%	80%	82.4 トン	74%	105%	○
	浦郷	マアジ、サバ類	2,622 トン	38%	68%	65.6 トン	61%	95%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	77 トン	39%	106%	165kg	55%	96%	○
	西郷	ケンサキイカ、ソデイカ	18 トン	168%	212%	128kg	49%	89%	○
沖合 底びき網	浜田	ソウハチ、キダイ	319 トン	93%	96%	12.8 トン	82%	94%	○
小型 底びき網	久手	キダイ、ソウハチ	192 トン	79%	89%	882kg	100%	105%	○
	和江	ソウハチ、キダイ	306 トン	83%	94%	900kg	91%	96%	○
定置網 (大型)	浜田	サバ類	7.9 トン	12%	30.3%	2.0 トン	67%	159%	◎
	美保関	ブリ、サワラ類	148 トン	146%	123%	1.6 トン	157%	120%	◎
	浦郷	ソウダガツオ	16 トン	117%	120%	650 kg	127%	129%	◎
釣り・縄	仁摩	クロマグロ(ヨコワ)、ケンサキイカ	25 トン	56%	84%	80kg	115%	162%	◎
	大社	クロマグロ(ヨコワ)	13 トン	51%	53%	67kg	163%	142%	◎
	西郷	ソデイカ、ケンサキイカ、メダイ	9 トン	40%	63%	35kg	108%	104%	○

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは平年比を－とした

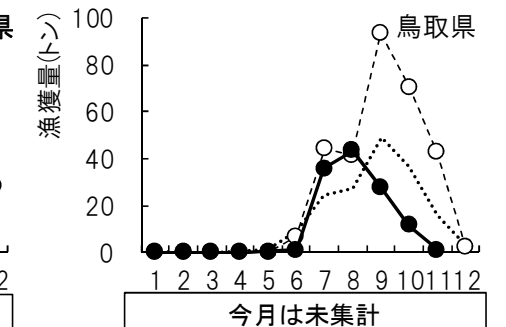
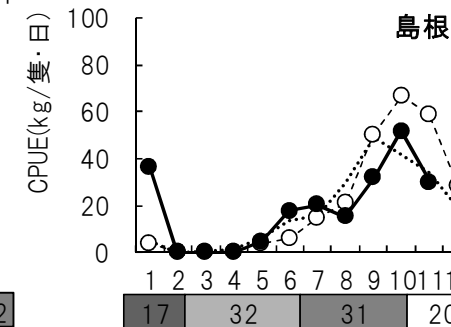
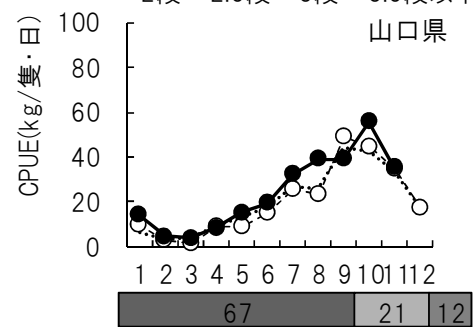
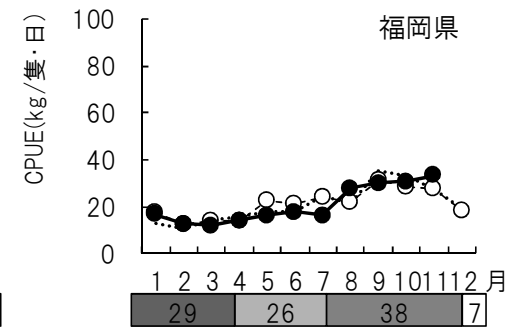
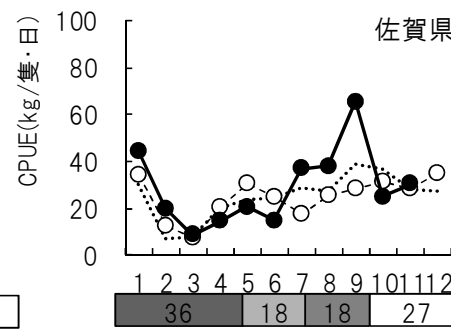
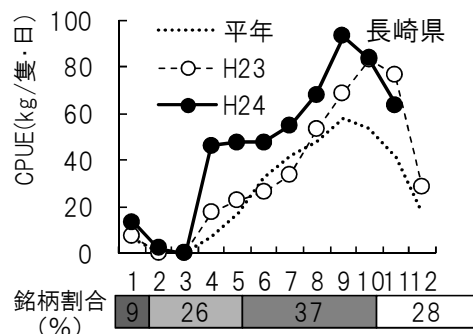
【ケンサキイカ情報】

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I: 11月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	11月の漁獲量は、先月に比べ大きく減少し、豊漁だった昨年の5%以下、平年の10%以下となりました(11月の漁獲量は暫定値)
島根県	主要7港の水揚量は145トンで、平年並みで、前年を下回りました(平年比103%、前年比39%)。
山口県	漁獲量は前年を大きく下回り(前年比59%、平年並みでした(平年比86%)。
福岡県	代表港の漁獲量は前年比87%、平年比80%と、前年・平年を下回りました。(出漁隻数も平年を下回りました。)
佐賀県	代表港の漁獲量は、出漁隻数減少のため、前年比23%、平年比27%と、前年・平年を大きく下回りました。
長崎県	11月の漁獲量は昨年を下回り、平年を上回りました。(前年比78%、平年比126%)



※平年は過去5年(H19~H23)の平均値

II: 12月上旬の底層水温

鳥取県	水深100m以浅の海域の底層水温は15℃前後でした。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は4~9℃で「平年並み~やや高め」、高山沖は4~19℃で「かなり低め~平年並み」でした。
山口県	沿岸域では16~17℃台で甚だ低め、沖合域は7~14℃台でやや低め~甚だ低めでした。
福岡県	沿岸域の水温は15~17℃台と甚だ低め~かなり低め、沖合域の水温は16~17℃台と甚だ低め~やや低めとなっています。
佐賀県	壱岐水道では17.2~18.4℃で平年並みからやや低め、対馬東水道では15.7~18.7℃でやや低め~甚だ低めでした。
長崎県	12月の底層水温は16~18℃台で前年を下回りました。

